



上 京
史蹟と文化

美を語る

千利休を描いた二人の画家——大観・契月



美術史家

加藤 類子

テレビの大河ドラマは、織豊時代が幕末か、概ねその辺りに取材していますが、時代が逆れば逆るほど、作り物めいてくることもあってか、制作者の食指は鈍いようです。また、時代の人気のヒーローが、その辺りに集中しているということかもしれません。今年の大河ドラマの浅井三姉妹も、やはり秀吉や家康や淀殿を中心に展開してゆくようです。その狂言廻しに、千利休や石田三成が配されています。中でも利休の像は同工異曲というか、どのドラマでも、もどかしい、物足りない想いが残ってしまいます。利休賜死の真実が曖昧で、想像で補う余地があるからなのでしょう。ドラマの利休像に共通しているのは、冷静で、火中の栗は拾わないリアリストで、周辺の覇者たちを、芝居の登場人物のように舞台の裾から眺めている姿として描いていることです。

利休の遺影として最も世に知られているのは、不審庵所蔵の〈利休居士像〉ですが、筆者は利休と親交のあった長谷川等伯（一五三九—一六一〇）と伝えられ、大徳寺塔頭三玄院の住職春屋宗園が賛を寄せています。利休没後間もなく制作されたと言いますから、等伯にとつても、宗園にとつても、未だ利休の面影は目交いまなまにあつたことでしょう。伶俐な両眸め、高い鼻梁、薄く意志的な唇など、穏やかなうちにも、不退転な内面を想わせる肖像画です。

以後三百年余、近代の日本画家たちも、千利休を描きました。一人は横山大観です。大観は大正七年（一九一八）、第五回再興院展に〈千与四郎〉を出品しました。六曲一雙の屏風です。絹地に裏側から金箔を押した、ほの明るい下地に、一面の緑に覆われた茶室の露地を画き、そこに晩秋らしく桜紅葉やちらほらと咲き始めた山茶花さざんかも配されています。清潔に掃き清められた庭の中央に佇たつのは、若き日の千与四郎、後の千利休です。

千与四郎が同じ堺在住であった町衆武野紹鷗たけのじょうおに茶道の教えを請ったのは、十代の末の頃だったと伝えられています。



横山大観 千与四郎
1918(大正7)年
財団法人 野間文化財団所蔵

すが、横山大観のこの作品は、与四郎入門時の逸話に取材しているのです。あらかじめ下男に命じて露地を掃除させておいた紹鷗は、あらためて与四郎に掃除を命じます。すっかり掃き清められた露地に立つた与四郎は、しばらく四圍を見渡して思案していましたが、やがて傍らの樹を揺すつて枯葉を落としました。一点の塵も見なかつた露地に、はらはらと葉が散つて、何とも好ましい風情を醸し出しました。物陰からこの様子を見ていた紹鷗は与四郎の美的感覚の尋常でないことを感じ取り、与四郎の才を愛して皆伝の弟子としたと伝えられます。大観の画く和四郎は庭箒をぶつきらばうに握り、烟燭けいけいとした大きな眼で周囲を眺めています。少し開いた両足も、意志強く踏みしめる如くです。与四郎の背後の木陰や竹垣の辺りには紅葉した桜の病葉ぢぢばが散つています。大観はこの作品の制作のために京都へ赴き、しばらく滞在して、藪内家の茶室やその庭をモデルにしたとも伝えられています。大正七年（一九一八）というと、京都では土田麦僊むくせんや小野竹喬ちくまう、村上華岳がくが国画創作協会を結成して、文展（文部省美術展覧会）と袂を分かつた年でもあります。これに先立つ大正三年、前年の岡倉天心の逝去を機に大観が文展の審査員を罷免されることがあり、大観、下村観山をはじめ、日本美術院の主だったメンバーが文展を脱退し、新たに再興日本美術院を創設して東京日本橋・三越旧館において、第一回展を開催しました。京都の国画創作協会の結成にも、大観らの動きが刺激を与えたと言われています。

生涯尊敬して止まなかつた天心や盟友菱田春草しんそうを失つたことで、大観にはこの時期、大きな責任感と抱負があつたことは想像に難くありませんが、大正期の大観の作品は一作毎に作風を変えつつも、おおむね大らかで、時には墨彩、時には琳派風の豊かな装飾性と色彩を展開しつつ、自在の境地に遊んでいます。もちろん、後期から晩期の墨彩、雄大な富士山や太平洋の描写が好きだというファンも多いのですが、

最も充実した芸術は、この大正時代に生まれたと言つても過言ではありません。中でも、掲出の〈千与四郎〉や大正五年の老子的な山村暮らしの良さを表わした〈作右衛門の家〉は、豪放という大観画の固定的な評価を裏切るような、緻密な自然観察や、やまと絵の伝統に繋がる鮮明な色彩感覚によつて驚かされます。

もう一人、千利休を画いた画家に菊池契月（一八七九—一九五五）があります。横山大観が若き日の、自信に満ちた千与四郎を、六曲一雙の大きな画面に画いたのに対して、契月は僅か十号程度の麻紙に、薄墨と淡彩によつて、晩年近い利休を画いています。かすかに微笑むが如き利休は、おそらく、長谷川等伯筆とされる〈利休居士像〉を参考にしたものでしょう。薄墨の法衣に袈裟を掛け、端然と坐る利休の前には、生涯愛用してきた茶道具の姿は無く、ただ簡



素な竹筒の花入れに、一輪の小菊が挿されているのみです。秀吉より死を賜った利休は、天正一九（一五九二）年二月二八日、葎屋町通元誓願寺の聚楽屋敷で自刃しましたが、大徳寺門前の紫野屋敷に建てた茶室は不審菴と名付け、利休居士、不審菴居士と号して、多くの茶事を取りしきり、多くの貴顕名士と茶会を楽しましました。契月の〈不審庵居士〉は、全ての身の囲りを整理して、静かに運命の瞬間を待つ利休の姿を写しているのか、あるいは、不審菴のある日の利休を描いているのか、鑑賞する人々が想像するしかありません。なお、「利休」という居士号は、天正一三年（一五八五）秋、秀吉が催した禁中茶会の後見役に選ばれた際、正親町天皇より賜られたと伝えられています。菊池契月は円山応挙以来、伝統的に写生派の多い京都の画壇では



菊池契月 不審庵居士 1948（昭和23）年頃 個人蔵

異色の、歴史画を得意とする画家でした。長野市に近い、下高井郡中野町（現在の中野市）に生まれましました。初めは南画家の児玉果亭に絵を学びましたが、やがて出奔同様に京都に出、紆余曲折の末、菊池芳文

の門に入りました。芳文は四条派の幸野椋嶺門下の四天王の一人と言われた成長株で、すでに多くの弟子を擁し、竹内栖鳳、山元春挙、都路華香らとともに、黎明期の京都画壇を支えて活躍しました。その芳文に入門した契月は、持ち前の忍耐力と精進で頭角を現しました。しかし、契月には人物画を描き、歴史画を描く夢があり、花鳥や山水中心の京都の画壇に馴染むことが出来ず、ひそかに東京へ移ろうと決意を固めつつありました。そんな折、契月の誠実な人柄に惚れ込んだ師匠の芳文から、智養子として菊池家を継ぐことを懇請され、契月は悩んだ末、芳文の娘アキの婿として菊池家に入りました。それは同時に芳文塾を継ぐことでもありました。明治三九年のことです。契月は生涯官展に活躍する画家の一人として、京都画壇の一翼を担いました。育てられた後進は多く、妖艶な美人画を描く画家も輩出しています。謹厳な印象のある契月には意外の感もあることですが、契月は若い画家のユニークな芽は摘まず、むしろ研究会を通じて、自由に制作させたのでしよう。一方、契月自身は、大正末から院展の画家たちを中心に、「新古典主義」と呼ばれる端正かつ理知的なスタイルが台頭して来る中で、彼等と軌を一にするように、勾勒と呼ばれる細くしなやかな輪郭線を用いて、〈敦盛〉、〈朱唇〉、〈桜〉など、清楚で清潔感のある名作を次々に世に出しました。しかし、晩年の契月は高血圧に悩まされ、次第に公務から退き、大作も画けなくなりました。そうした環境下で画かれたのが、小品の歴史画です。六歌仙、仏画、戦国武将、茶人などさまざまですが、達者な筆で表されたこれら小品は、大きな展覧会に出品された格調ある作品とは別趣の、温かさと寛ぎを観る人に与えます。掲出の〈不審庵居士〉も、その中の一点です。利休と言えば、厳しくも激しい花の生涯を連想しがちですが、契月の利休は、静かに、安らぎのなかに憩っているように思われます。

上京歴史探訪館

上京の魅力を再発見してみませんか！

築100年近くの小さな京の町家「上京歴史探訪館」では、平安京以来の歴史・文化を有する最も京都らしいまち、上京の歴史・魅力を発信しています。「虫籠窓」「通り庭」など町家独特の造りを実際に目にしたり、町家の魅力などについて話を聞くことができます。周辺は、平安京の内裏(天皇の居所)があった場所である一方、文政年間創業の老舗をはじめとする町家が建ち並び、昔の風情が残っています。



開館日 通年の土・日曜日

休館日 お盆(8月10日～17日) 年末年始(12月25日～1月10日)

開館時間 午前10時～午後4時

上京区下立売通智恵光院西入 TEL/FAX 812-2312 (開館中のみ) <http://kamigyo.doshisha.ac.jp/>

入館無料

上京区文化振興会

発足以来約60年、 これからも上京区の文化振興に貢献します。

上京区文化振興会は、昭和33年に結成されて以来、様々な文化事業の開催を通じて上京区の文化の普及と啓発に努めています。昭和40年から毎年開催している上京茶会と上京新能は、上京を代表する文化事業として区民に親しまれています。

本冊子「上京－史蹟と文化」は、上京区の豊かな歴史と伝統に育まれた質の高い文化を身近に感じていただき、文化資源の貴重さを再発見し、関心を高めていただこうと上京区文化振興会が編集し、上京区民ふれあい事業として年2回発行しています。シリーズ「上京の大路小路」では、史蹟や歴史的な背景を織り交ぜながら上京区の通りを紹介しています。



「大路小路」(数字は冊子の発行号です。)

19	今出川通	25	下立売通	29	出水通		武者小路通	39	榎木町通
20	大宮通	26	千本通	30	室町通	35	元誓願寺通	40	天神道
21	寺之内通		上長者町通	31	上御霊前通		笹屋町通	41	油小路通
22	堀川通	27	下長者町通	32	浄福寺通	36	智恵光院通		
23	一条通		中長者町通	33	中立売通	37	上立売通		
24	寺町通	28	烏丸通	34	小川通	38	新町通		

本冊子の第1号から最新号までは、上京区のホームページから PDF 形式で閲覧いただけますので、ぜひご一読ください。(<http://www.city.kyoto.lg.jp/kamigyo/>)



油小路通

油小路通は南北に走る縦通りとしては最も長い道だといわれています。現在では北端が加茂川に近い竹殿南通に始まり、南端は近鉄上鳥羽口駅に近い府道中山稲荷線までの九・二キロに及びます。平安京では一条大路から九条大路まで貫く幅四丈（約一二メートル）の小路でした。北区に属する鞍馬口通より北は近代の都市計画による新しい街路です。また南の

方は東海道線のガード下から堀川通と合流して広い都市計画道路となりま。もともと油小路通は、東洞院通とともに竹田街道に接続します。竹田の北向不動尊の近くに

小川がここを流れているのです。やがて小川は暗渠になって東へ折れ、さらに南へ流れ、一条通を西へ、堀川に合流していました。したがって、本来の油小路通は上立売通から南を指したものと思われる。

今の上京区域に当たる平安京の油小路は一条大路から南が官衛街で、縫殿町・帯刀町・女官町・左近町・左兵衛町・東囚獄・高陽院などがありました。平安時代末期になると平安宮（大内裏）が衰退し、内野といわれるような荒地となり、中世末には応仁の乱によってさらに荒廃が進みます。こうした中にも竹田街道に接続する街路

ある大きな道標には、それが表示されています。

ところが上京区最北部、鞍馬口通と上立売通との間は小川通と呼ばれて中断しています。ここには妙覚寺や表千家・裏千家があり、

方は東海道線のガード下から堀川通と合流して広い都市計画道路となりま。もともと油小路通は、東洞院通とともに竹田街道に接続します。竹田の北向不動尊の近くに



光悦京屋敷跡碑

いつも新しい感動を



京都ブライトンホテルは京都御所の西、閑静な住宅街にあります。ここは、千利休や武者小路千家官休庵に代表される茶の湯文化の中心地。この場所にふさわしく、新しい文化発信基地となるようよりよい商品とサービスを提供し続けてまいります。



京都ブライトンホテル

〒602-8071 京都市上京区新町通中立売(御所西)
Tel.075-441-4411(代) Fax.075-431-2360
<http://www.brightonhotels.co.jp/kyoto/>

歴史文字シリーズ

伝達浪漫



紀元前3000年頃。パンのシンボルが描かれ、食料配給の割り当てが記録されている。

和光印刷株式会社

〒602-0012 京都・烏丸通上御堂前上ル TEL.075-441-5408代
E-mail:info@wako-print.co.jp

として、ほとんど直線のまま現在に至っているのです。

光悦京屋敷

油小路今出川上るの東側、民家の角に「本阿弥光悦京屋敷跡」の石碑が立っています。これは昭和六十一年に上京区文化振興会が区内の史蹟を顕彰した事業の一つです。この地には室町時代初期から刀剣の研ぎ、拭い、目利のいわゆる三業をもって生業としていた本阿弥家が代々の屋敷としていたところで、「本阿弥辻子」の名が遺っています。その本阿弥家歴代の中でも芸術史上に功績を残した光悦が、永祿元年（一五五八）、この地に生まれたのです。

光悦はその本業である三業において達人の名をほしのままにしましたが、その天性の高雅な芸術的人間性は、特に書道に、茶道に氣韻あふれる美的境地を開いたのです。天下の数奇者の敬仰を集

めた光悦は元和元年（一六一五）五十八歳の時、徳川家康から洛北の鷹峯の地を拝領し、寛永十四年（一六三七）、その八十歳の生涯を終わるまでの晩年を鷹峯の光悦村で風流の一生を送りました。風月を楽しんだ光悦の基礎を作った地として往時を偲ぶよすがとなるものです。

慶長天主堂

白峯神宮のオガタマノキの巨樹を右に今出川通を越え、元誓願寺通の西南角に「慶長天主堂跡」の石碑があります。金網越しに説明板を見ると次のようないわれが記

されています。

慶長九年（一六〇四）頃に復興したヤソ会の天主堂教会がこの場所にありました。織田信長の保護のもとに本格化し、南蛮寺も建てられましたが、天正十五年（一五八七）、豊臣秀吉が宣教師追放令で弾圧しました。秀吉の死後、宣教師らは布教の許可を得て寺の再建に努力します。関ヶ原合戦後、徳川政権の確立により再び布教が自由となり、この地に天主堂が復興されました。旧南蛮寺より美しい建物といわれ、宣教師が常駐し、ミサが行われて、付近には学校も設けられました。しかし慶長十七年（一六一二）、幕府はキリシタ

年（一六一二）、幕府はキリシタ



慶長天主堂跡碑

山田松香木店



ンの大弾圧を開始し、天主堂も焼きはらわれてしまいました。

樂家・樂美術館

一条通を越えた西側に千家十職の一つ、樂家の住宅と樂美術館があります。樂家は安土桃山時代の天正十七年（一五八九）に没した（生年不詳）樂長次郎を初代とする軟陶質の樂焼茶碗を生業として十五代を数えます。



楽家のれん

職を意識した屋敷全体が保存されており、黒樂窯と赤樂窯や土小屋などが今も使われているのは上京の誇りです。樂家は中国系渡来陶工であった阿米也の長男、長次郎が瓦を焼いていたのですが、千利休の指導により茶碗を焼くようになり、天正十六年



樂家住宅

樂家の住宅は主屋をはじめ蔵や窯場・茶室・表門など九件が国の登録有形文化財となっています。明治前期に建てられ、代々の樂焼の窯を継承してきた陶芸家の自邸であり、作陶家の住職一致の姿をよく残しているところが貴重です。表門の格子を通して見える主座の暖簾には「樂焼御ちやわん屋」の文字が見え、本阿弥光悦の筆と伝えられています。主屋の外観は町家風ですが、内部は意匠を凝らした数寄屋普請で、千家十



樂美術館

(一五八八)に秀吉に召されて窯を聚樂第で開き、聚樂焼の名を与えられて「樂」の印を許され、それを以って姓としました。代々、吉左衛門を名乗り、それぞれ下に「入」の字がつく陶号を受けついでいます。

先代が創設された樂美術館が南側に隣接し、樂家四百五十年の伝

柔道圓心道場
〒602-0014
京都市上京区室町通寺之内西上ル下柳原北半町 210
TEL (075) 441-1968 / FAX (075) 441-2972

山崎接骨院
〒602-0898
京都市上京区烏丸通寺之内西上ル相国寺西門前町 647
TEL (075) 451-6050 / FAX (075) 451-6051
<http://www.enshin.sakura.ne.jp/>

新・古茶道美術品
清昌堂
やました

京都店・京都市上京区小川通寺ノ内上ル
〒602-0061 TEL (075) 431-1366
FAX (075) 431-1370

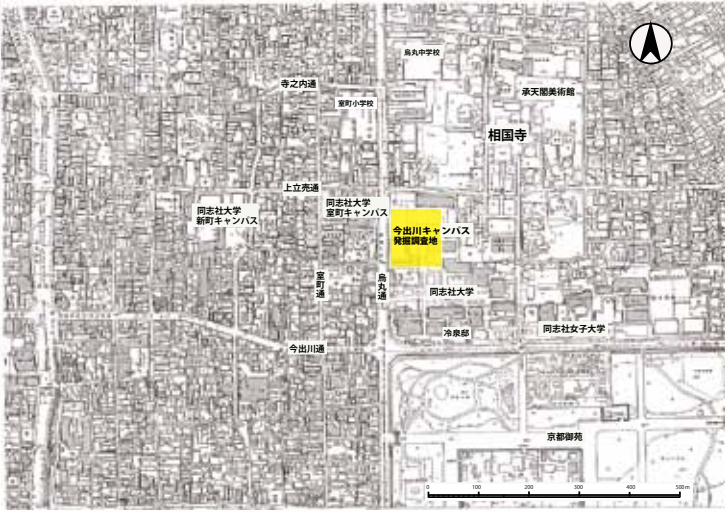
東京店・東京都新宿区市谷甲良町1-8
〒162-0856 TEL (03) 5261-4566
FAX (03) 3235-5677

上京の埋蔵文化財

— 今出川キャンパス(相国寺旧境内)の発掘調査 —

1. 今出川キャンパス前史

今出川キャンパス新校舎の建設



調査地の位置 (1 : 10000)

に伴い、二〇一〇年八月十六日から発掘調査を開始しました。新棟の発掘調査は二〇一一年三月末日をもって終了し、今年度は小規模な面積の発掘調査を断続的にほぼ一年間かけて実施していきます。今出川キャンパスは、かつては相国寺の旧境内(南西部)に位置していました。相国寺は永徳二年(一一三八二)に室町幕府第三代将軍足利義満(一一三五八〜一四〇八)によって創建された禅宗寺院です。義満の将軍邸室町第(花の御所)は、相国寺の

西隣りに位置し、同志社大学寒梅館建設に伴う発掘調査で関連遺構が見つかり、一部が保存され残されています。開山は夢窓疎石。相国寺はその後、火災や戦乱に幾度となく見舞われましたが、都度再建されてきました。現在ある中心建物の一つである法堂は、豊臣秀頼(一五九三〜一六一五)の寄進によるもので、大半は江戸時代以降に造営された建物です。幕末になると西国雄藩の一つ薩摩藩が、文久二年(一八六二)に相国寺から土地を借りて当地に屋敷地(二本松屋敷)を構えました。以後幕末京都における薩摩藩の拠点として、歴史的に重要な場として度々登場することとなります。薩長盟約の文書に坂本龍馬が朱書で記したのは、まさにこの薩摩藩邸においてでした。そして幾許かの時を経て同志社の所有するところとなっていくのです。

義満の将軍邸室町第(花の御所)は、相国寺の



写真1 室町時代の礫敷き道路



写真2 戦国時代の堀

2. 発掘調査の概要

実に多くの遺構・遺物が出土しましたが、その大半は相国寺に関連するものです。

相国寺

創建期の遺構面は地表面から約一・七m下で検出されました。以後、再建によって造成による盛り土が行われ、地盤のかさ上げがなされていきます。

創建頃の主な遺構は水路と道路があげられます。水路は南北に直線的に走る幅十m、深さ一・四mにおよぶ大規模なもので、もともと自然流路であったものを傾斜面に礫をあしらったり、部分的に石垣を組んだりして大規模に整備を行った様子が見えられました。また水路の堤上には道路状の礫敷遺構が検出されました(写真1)。

その他、礎石建物や溝・土坑等数多くの遺構が見つかりました。遺物では、水路埋土から出土した底部に「鹿」と墨書された古瀬戸碗

が注目されます(写真3)。近世の絵図によれば、調査地南半には「鹿苑院」という塔頭が存在しており、塔頭鹿苑院の「鹿」を示す可能性が指摘でき、鹿苑院が創建当初からこの近辺に存在したと考えられます。鹿苑院は足利義満の位牌が祀られ、中世禅宗社会において権力を有した塔頭です。その一端が今回明らかとなったのです。

また鹿苑院に関する他資料として「鹿苑衆寮」と墨書された白磁



写真3 「鹿」墨書古瀬戸碗

皿(十五世紀)や江戸時代の土地の境界を示す石柱に「鹿苑」の文字を刻んだものが出土しました。これらの資料から連綿と「鹿苑院」が当地に存在していたことを物語っています。

時代は下って、戦乱の世の幕開けともいえる応仁・文明の乱に相国寺は焼失し、その再建の様子が明らかになりました。先ほどの水路は完全に埋められ、敷地全体が大幅に盛土造成されました。調査地の南側では直径一mを越える掘



写真4 桐紋軒丸瓦

り方で、柱の土台となる礎石を支える根固石を六か所確認できました。柱間四・五m程を測り、掘り方・根固石の規模から重厚感のある建物が想定でき、瓦を葺く仏堂ではないかと考えられます。

さらに桐の紋様をもつ十五世紀代の瓦が数多く出土しました(写真4)。桐紋は後醍醐天皇から足利尊氏が下賜されたもので、足利將軍家が代々使用した家紋の一つです。足利將軍家・

●表紙の題字 吉川蕉仙先生

上京区130周年を記念して、題字を上京区在住の書家吉川蕉仙先生に、揮毫していただきました。先生は京都学芸大学(現京都教育大)卒、学生時代より日展に入選入賞を重ねられ、平成19年には内閣総理大臣賞を受賞されました。

現在は京都橋大学名誉教授、日展評議員、京都書作家協会顧問等を務められ、活躍されています。

相国寺にとって極めて意味のある瓦と考えられ、重要な建物が存在していたことがうかがえます。

調査区の西方では南北に走る断面台形の大溝（幅四m、深さ一

四m、長さ十六m以上）が二条見

つかりました（写真2）。山科本

願寺や城郭に共通する鍵の手状に

屈曲する部分が見られ、防御機能

を兼ねていたと想定されます。時

期は出土遺物から十六世紀中頃

（戦国時代）で、当地一帯は数多

くの戦場地として史料上にみられ

ます。溝の規模・形状等から相国

寺を防御する機能を持つ堀状施設

として掘削された可能性が考えら

れます。寛永十四年（一六三七）

洛中絵図の相国寺境内の西限と一

致するため、この溝の位置が相国

寺境界線として引き継がれていく

ようです。また、これらの大溝の

間に石垣を両側に組んだ直線的に

延びる溝（幅四・五m、深さ〇・

六m、長さ十六m以上）が見つか

りました。時期は十五世紀（創建

期まで遡るかは要検討）で、この溝が十六世紀中頃以前の相国寺境内西限を示す境界溝である可能性が考えられます。

薩摩藩邸（二本松屋敷）

大きな成果があることを期待して調査に臨んだ薩摩藩邸跡ですが、残念ながら薩摩藩邸跡に関する確実な遺構は見出すことができませんでした。薩摩藩邸があった遺構面は地表面からわずかに四〇cm程と浅くほぼ同一面上で開墾の痕跡を示す土層が各所で認め



写真5 島津家家紋染付碗

られ、比較的早い段階に藩邸は解体されたのではないかと考えられます。遺物では注目すべき資料が見つかりました。丸に十字の入った紋様をあしらった染付の筒形茶碗（口径六・六cm、高さ五・一cm）が一点出土したのです（写真5）。

産地同定については今後の課題ですが、時期は幕末頃で問題ないと理解される資料です。紋様は島津家の家紋であり、かつてここに薩摩藩邸が存在したことを考古学的に証明する資料です。同志社敷地内には薩摩藩に関係する遺産は現在なく、一点とはいえこの資料は混迷する幕末政局動乱の中で薩摩藩が活躍したその足跡を示す貴重な資料といえます。

その他、「新島先生之遺品」と呉須で記された特異な形をした土器が出土しました。一緒に出土した他の遺物のような日用品とは考えにくい土器で、特殊な用途に使われたものと考えられます。用途については文字の判読同様、今後

さらに調査を進めていきますが、かつて付近に理化学教室が存在していたことを考えあわせると、理化学実験の際に使用したものでないかと推察されます。こうした同志社関係の資料も今回出土しており、同志社の歴史を考える考古学資料として極めて貴重といえます。

3. おわりに

今出川キャンパス界限は、室町

耳鼻咽喉科 鈴木医院

京都市上京区中立売通堀川西入
441-0675

診察時間 午前9時～12時
午後4時半～7時半

	月	火	水	木	金	土	日
午前	○	○	○	×	○	○	×
午後	○	○	○	×	○	×	×

祝休診

4N

当院

● 京都中央信用金庫

堀川通

中立売通

相国寺年表

年	月 日	事 項
永徳2年 (1382)	10月3日	足利義満、寺院建立の意図をのべ、寺号を承天相国寺とする
	10月29日	仏殿・法堂立柱
永徳3年 (1383)	12月2日	義満、義堂周信の勧めにより、寺号を相国承天禅寺と改める
至徳3年 (1386)	7月10日	義満、相国寺を五山第二位とする
嘉暦2年 (1388)	7月10日	僧堂落慶
明德2年 (1391)	4月14日	法堂開堂
明德3年 (1392)	11月3日	相国寺大塔の基礎を定める
応永元年 (1394)	9月24日	相国寺直歳寮より出火、諸堂寮舎が炎上する
	11月28日	仏殿・山門立柱
応永3年 (1396)	4月2日	法堂落慶
応永5年 (1398)	6月25日	鹿苑院三重塔落慶
応永6年 (1399)	9月15日	相国寺大塔供養
応永8年 (1401)	3月5日	幕府、相国寺を五山第一位とする
応永10年 (1403)	6月3日	雷火により大塔炎上
応永11年 (1404)	4月3日	義満、相国寺大塔を北山に移すため立柱の儀を行う
応永23年 (1416)	1月9日	北山に移した大塔が落雷により焼失。相国寺内に再び移転再建が計画される
応永25年 (1418)	3月3日	北小路今出川より出火、法界門・薬師堂・門前八町が焼亡
	8月	法界門建立
応永32年 (1425)	8月14日	相国寺火災により寺内七堂以下、方丈・文庫・鐘楼・諸塔頭が炎上する
応永34年 (1427)	7月26日	相国寺山門・鹿苑院仏殿立柱
永享3年 (1431)	11月3日	仏殿上棟・法界門立柱
永享8年 (1436)	6月27日	僧堂落慶
寛正7年 (1466)	12月20日	延暦寺僧兵、相国寺付近で京極の入道と武力衝突、鹿苑院三重塔他、諸建物が焼失
応仁元年 (1467)	10月2日	山名方の攻撃により、大塔を残して伽藍焼失（応仁の乱）
文明2年 (1470)	10月3日	相国寺大塔が落雷により焼失
文明10年 (1478)	10月21日	法堂上棟、仮仏殿立柱
延徳2年 (1490)	10月6日	火事により、相国寺門前等が焼ける
永正5年 (1508)	10月	幕府、相国寺を再興する
天文20年 (1551)	7月14日	細川晴元方、相国寺に陣取り三好方と戦う。兵火により伽藍焼亡
慶長10年 (1605)	10月8日	豊臣秀頼、法堂・鐘楼を造営する
慶長14年 (1609)	4月3日	山門落慶
慶長20年 (1615)	7月7日	幕府、五山十刹諸山諸法度を発布し、鹿苑僧録を廃止する
元和6年 (1620)	2月20日	新町、京町屋より出火、相国寺方丈、開山塔、鹿苑院以下諸塔頭が焼亡
承応2年 (1653)	8月18日	後水尾天皇、三重宝塔を再建
寛文6年 (1666)	5月10日	後水尾天皇、崇寿院（開山塔）を再興する
天明8年 (1788)	1月30日	天明の大火により、法堂ほか数院を除いて伽藍焼失
寛政9年 (1797)	6月24日	総門再造
文化4年 (1807)	9月6日	開山塔諸堂落成
	9月9日	方丈上棟
天保13年 (1842)	1月7日	鐘楼再造
文久2年 (1862)	9月	薩摩藩、二本松屋敷造営に伴い、鹿苑院および瑞春院敷地ならびに門前五ヶ町、計6946坪9分強を貸与する

時代においては日本の中心地であり、そして幕末動乱期においては様々な歴史の重要な舞台となり、そうした歴史の重層性が今回の発

掘調査によって改めて浮き彫りにされました。そしてその地に同志社が存在していることの意義は極めて重要で、今後広く発信をして

いきたいと思います。

同志社大学歴史資料館

准教授 浜中邦弘

永年の信用
まごころのご奉仕

葬祭センター

 **公益社**

本社 / 京都市中京区烏丸通三条下ル ☎ 075(221)4000
フリーダイヤル ☎ 0120-00-4200 <http://www.koekisha-kyoto.com>

◆ 葬儀 式 場 ◆

北プライトホール (堀川紫明) 京都市北区紫明通堀川東入 ☎ 075(414)0420
中央プライトホール (五条大和) 京都市東山区五条通大和大路 ☎ 075(551)5555
南プライトホール (堀川八条) 京都市南区堀川通八条下西側 ☎ 075(662)0042
西プライトホール (五条西大路) 京都市右京区五条通西大路百入南側 ☎ 075(322)0042
烏丸プライトホール (因幡漢師) 京都市下京区烏丸高辻南入東入 ☎ 075(351)7724
宇治プライトホール (宇治横島) 宇治市横島町(京都文教大学前) ☎ 0774(20)0042
滋賀プライトホール (大津) 大津市朝日が丘1丁目 ☎ 077(523)0042

みんなで花を咲かそう 活動



日頃から熱心に手入れを続けているボランティアの皆さんの手によって、区役所玄関前の草花がきれいに育ち、庁舎に彩りを添えています。ウサギヤクマ、イルカなど5つの形に剪定されているゴールドクレストにお気づきですか。区役所にお越しの際は、愛らしい姿をお楽しみください。

この活動に興味があり、継続して水やりなどのお手入れをしていただける方は、区役所まちづくり推進課までお気軽にお問合わせください。(電話 441-5040)

「みんなで花を咲かそう」活動 プリザーブドフラワーアレンジメント講習会

今人気のプリザーブドフラワーを使った「アレンジメント講習会」が3月12日に上京区役所において開催されました。

講師に NPO 法人フラワーアーティスト育成協会理事の辻井康雄氏をお招きし、参加者は10年以上も保存可能なプリザーブドフラワーを使って、思い通りにイメージしたオリジナルの作品を、和気あいあいと楽しく作り上げました。



上京区憲法月間「映画のつどい」

五月の憲法月間にあわせて、同志社大学寒梅館において、映画「おとと」が上映されました。(主催 上京区民ふれあい事業実行委員会)

今回も、日本語字幕と音声ガイドによる場面ごとの説明がついており、視覚や聴覚に障害のある方やご高齢の方も含め、みなさんがともに映画を楽しむことができました。

会場には部・二部あわせて約九百名の方々が来場され、家族の絆の深さを感じられる、感動に包まれた上映となりました。



上京 Tea Ceremony 茶会

書院での本席と、名庭「四海唱導の庭」を眺めながら大客殿でいただく副席の二席でお茶を味わい、初夏のひととき、広い境内にとさおり心地よい風が流れる中、贅沢な時間を過ごすことができました。

ました。

恒例の「上京茶会」が六月二十六日、大本山妙顕寺を会場に、表千家の懸釜で開催されました。

宴会・婚礼・会議
宿泊・レストラン

あじわい

¥5,000(税込)

ホテル

ルビノ京都堀川

〒602-8056 京都市上京区東堀川通下長者町
TEL 075-432-6161(代) FAX 075-432-6160
<http://www.rubino.gr.jp/>



レストラン

11:30~14:00
毎週日曜日はお得な
ランチバイキングを
しております

おひとり

¥1,500(税込)

元祖

ぼたん鍋と
京料理

畑かく

京・上御霊前烏丸西
〒605-0841



酢一筋の商い、伝統の滋味。

伝統から未来へ

京・西陣 孝太郎の酢

(有)林孝太郎造酢

京都市上京区新町寺ノ内上ル東入道正町455
TEL (075) 451-2071
FAX (075) 451-8028



花にまつわるエピソード...



季節も添えて演出します。

心のごもった贈り物 Flower Gift
~花束

アレンジメント
グリーンバスケット
スタンド花 etc. ~

フラワーアレンジメント教室 開催中!

本店 京都市上京区烏丸通今出川下ル tel 075-414-8700
fax 075-414-7787

フリーダイヤル 0120-46-8700

本店2F フリザーフードフラワー専門店 tel&fax 075-957-0187
長岡店 長岡京市1丁目セブン通り tel&fax 077-545-5587
大津店 大津市ロイヤルオークホテルS&Gガーデンズ内

<http://www.hanakobo.co.jp>



創立以来七十六年に
わたって、
和やかな家庭的な
雰囲気にもまれつつ
就学前教育の
本流をめざして、
保育を続けて
参りました。
幼児たちは
楽しい遊びを通して、
人生に必要な生きる
力のすべてを手に入れます。

学校法人 北野幼稚園

京都市上京区御前通一条下る (北野天満宮バス停下車南100m)

TEL.463-0111(代)

http://homepage3.nifty.com/kyotokitano_k/

京料理

はる

春日神

かみ

昼コース 二、一〇〇〇
夜コース 四、二〇〇〇
夜はアラカルトメニューもございます。

営業時間

昼 十二時~十五時

(ラストオーダー十四時)

夜 十七時~二十時

(ラストオーダー二十二時)

〒604-1804

京都市中京区先斗町四条上ル十メートル路西側

電話 〇七五-二二二-〇〇〇一

FAX 〇七五-二二二-〇〇〇一



「上京・史蹟と文化」は上京区役所まちづくり推進課で販売致しております (TEL 441-5040)
また、上京区役所のホームページで御覧いただけます。

ふれあって 住民の知恵を生かした 地域づくり

—お隣り同士のふれあいを大切に—

春日学区では、「自治」「福祉」「防災」を
三位一体とした地域活動を展開しています。

NPO法人 春日住民福祉協議会



- 神学部
- 文化情報学部
- 文学部
- 理工学部
- 社会学部
- 生命医科学部
- 法学部
- スポーツ健康科学部
- 経済学部
- 心理学部
- 商学部
- グローバル・コミュニケーション学部
- 政策学部



Doshisha University
同志社大学
<http://www.doshisha.ac.jp/>

お問合せ先 同志社大学 企画部 広報課 TEL:(075)251-3120

社会福祉法人市原寮

か ゆう 花友じゅらくだい

京都市上京区中立売通智恵光院西入多門町 445-4
(智恵光院中立売バス停前)

Tel (075)451-6000 Fax (075)451-7770

花友じゅらくだいデイサービス

Tel (075)451-6015

ホームヘルパー養成校
食育文化サロン
福祉・医療国際研究センター

<http://www.itihara.or.jp>



名物ゆどうふ
南禅寺 **ゆどうふ**
JUNSEI

左京区南禅寺門前 電話 075-761-2311
<http://www.to-fu.co.jp>

CH
A
n
o
K
A

お濃茶ラングドシヤ

OKOICHA
LANGUE DE CHAT

MALEBRANCHE
京都 北山

京都限定

洋菓子 マールブランシュ 北山本店

〒603-8053 京都市北区北山通植物園北門前 TEL(075)722-3399・FAX(075)702-9440
9:00AM~9:00PM 年中無休(喫茶10:00AM~8:30PM) <http://www.malebranche.co.jp/>